

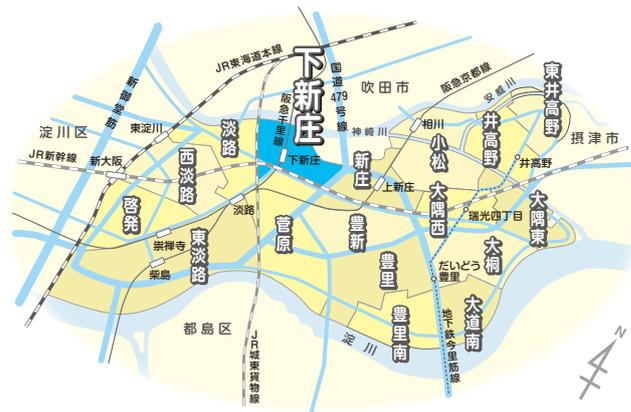
下新庄

地域社会福祉協議会

地域のデータ

- 人口：9,226人(区内11位)
- 世帯数：4,994世帯(区内10位)
- 少子化率：9.8%(区内13位)
- 高齢化率：21.3%(区内7位)

(2010年国勢調査の結果より)



下新庄地域の変遷

下新庄地域には阪急下新庄駅があり、以前は田園風景の広がるまちでしたが、現在は住宅の多い地域です。これまで、住民が集いつながる場の大切さを考え、ふれあい型食事サービスやふれあい喫茶、体操教室などをはじめとする活動を進めてきました。特に近年高齢化に伴い、それらのような地域での集いの場づくりが重要になってきました。

また、家族形態の変化などで、子どもと高齢者など世代間での交流も少なくなっています。そのような状況の中、下新庄地域の敬老大会では、高齢者だけでなく子どもから大人までが参加できるようにし、世代間交流の場としています。



■ 現在の状況

- 現在、下新庄地域では様々な行事や活動を行っています。それらの行事や活動は、人と人とのつながりを生む以外に、地域の情報発信の場としても機能しています。たとえば、犯罪に遭わないよう注意を促したり、地域の他の行事の参加呼びかけをおこなったりしています。このように、ひとつの行事や活動だけで終わらせてしまうのではなく、他の行事や活動、取組みなどと連携することによって、さらに大きな効果を生んでいます。
- それらの活動を進めるためには、多くの方々からの理解と支援が必要です。そのため、地域社協では会員制をとり、地域の方々や企業などに会員となっただけ、広く地域福祉のために活用する資金として『賛助金』をいただいています。

事業・活動等

- ふれあい喫茶
- ふれあい型食事サービス
- 子育てサロン
- 百歳体操
- 敬老大会
- バスツアー など



下新庄地域のこれから

- 地域のこれからのを考えていく上でまず重要なのは、これまでの活動をしっかりと継続させ、さらに時代や状況の変化にあわせた形で活動を活かしていくことだと考えています。活動を継続的に運営し、さらに発展させるには、多くの方々からの理解や支援が必要です。そのために、これまで以上に活動にご理解・ご支援をいただける地域社協の会員を増やしていきたいと思っています。
- そして活動の継続にはもう一つ、人や団体の“つながり”が重要になります。行事や活動は、そこで活躍される方々の力があってこそ運営でき、その参加呼びかけなども人のつながりがあってこそそのものです。さらに、その活動をより活発かつ効果的に運営するためには、関わる各団体がつながり、連携することが求められます。今後、このような“つながり”をさらに広げ、強くしていきたいと考えています。

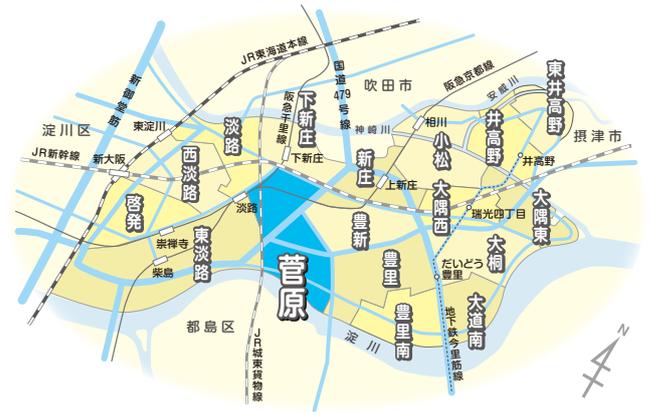
菅原

地域社会福祉協議会

地域のデータ

- 人口：17,003人(区内1位)
- 世帯数：8,686世帯(区内1位)
- 少子化率：12.2%(区内10位)
- 高齢化率：18.6%(区内9位)

(2010年国勢調査の結果より)



菅原地域の変遷

菅原地域は区のほぼ中央に位置し、淀川を挟み、菅原城北大橋を通じて旭区と隣接しており、面積も区内最大級で、人口・世帯数とも区内1位。また、沿線の淡路駅周辺では、阪急電鉄の高架化、JR城東貨物線の旅客線運用に向けての整備が進んでいます。

1972(昭和47)年に交通安全特別委員会が発足。その後、交通安全対策委員会を部会として位置付け、交通安全の意識向上と交通ルールの遵守の徹底を図るため、積極的に啓発活動やパトロールに取り組んできました。1978年、日比谷公会堂での第20回交通安全国民運動中央大会において、交通安全優良団体として大阪府を代表して表彰を受けました。

■ 現在の状況

● 地域社協に設置された各部会・委員会の機能がきちんと発揮されてきたため、敬老大会や交流事業をはじめとする各種事業の企画から運営に至るまで、非常に充実した取組みが現在もおこなわれています。

Pick up

● 地域では一人一役をモットーに、できるだけ多くの人に参加してもらえよう、地域のつながりを大切に活動に取り組んできました。地域では従来からPTAとの関係が深く、主に児童の登下校の時間帯に、学校・地域・菅寿会(老人会)の関係者が中心となって、毎朝通学路において、『すがはら子どもの安全みまもり隊』として、元気にあいさつを交わしながら子どもたちの見守り活動をおこなっています。

事業・活動等

- ふれあい喫茶
- 子どもの野外活動
- ふれあい型食事サービス
- 菅原地域敬老大会
- 子育てサロン
- 社会を明るくする運動
- 百歳体操
- 健康ウォーク
- 登下校時の児童見守り活動 など



敬老のつどい

菅原地域のこれから

■ 市政改革により2013年に地域活動協議会が発足し、市からの補助金等が一元化されたことから、これまで地域社協が主体となって取り組んできた活動の大半が、地活協の主体事業として取り組まれるようになりました。しかしながら、「高齢者」「障がい者」「青少年」の各分野における取組みは、社協が担うべき地域の福祉活動として、未来へ向け、今後も力を入れるべきであると考えています。



すがはら子どもの安全みまもり隊

■ 具体的には、敬老事業や、障がい者就労支援施設で製造・販売されているクッキーの購入・PRによる社会参加への支援、小学校の芝生化や区社協事業への協力等に、引き続き積極的に取り組んでまいります。

による社会参加への支援、小学校の芝生化や区社協事業への協力等に、引き続き積極的に取り組んでまいります。

東 淡 路

地 域 社 会 福 祉 協 議 会

地域のデータ

- 人 口：11,765人(区内5位)
- 世 帯 数：6,113世帯(区内6位)
- 少子化率：7.7%(区内14位)
- 高齢化率：28.0%(区内1位)

(2010年国勢調査の結果より)



東 淡 路 地 域 の 変 遷

東淡路地域は阪急淡路駅周辺や、1975（昭和50）年ごろに建設された大型の民間分譲住宅、公営住宅などを中心に発展してきました。また、図書館やスポーツセンターなどの公共施設のほか、福祉関係施設や学校施設、保育所など、多くの施設に恵まれています。

地域ではそれらの施設や関係機関、団体と協力しながら行事などを実施してきました。たとえば、毎年小学校または中学校をお借りしてで敬老事業を実施しています。

また、1990（平成2）年に東淀川区第1号として始まった老人給食（現：ふれあい型食事サービス）では、区役所や福祉施設などから保健師や看護師の方に来ていただき、健康相談なども実施してきました。

■ 現 在 の 状 況

- 地域の中では、近年急速に進んでいる高齢化を心配する声がよく聞かれます。特に昭和50年ごろに建設された大型分譲住宅や公営住宅は築40年を迎え、独居の高齢者が増えています。それら高齢者が安心して暮らせるためには、やはり近所や地域での支え合いが大切であり、そのためには地域でのつながりづくりが大切になります。現在では、地域でのつながりをつくるため、以前より実施している事業や行事などで、より人が集う場づくりを進めています。
- さらに安心して暮らしていただくための取組みとして、『救急カプセル』事業を平成26年から始めました。これは自身の身体の情報や緊急連絡先、医療関係の情報をカプセルに入れ、冷蔵庫に置いておくというものです。消防などと連携することで、もしものとき迅速な対応ができます。

事 業 ・ 活 動 等

- ふれあい喫茶
- 子育てサロン
- ふれあい型食事サービス
- 救急カプセル事業 など

ふれあい型食事サービス

ふれあい喫茶

ふれあい喫茶では季節ごとのメニューでみなさんをお出迎え!

東 淡 路 地 域 の こ れ か ら

- 東淡路地域をさらに安心して暮らせるまちにするには、これまで以上に地域の各団体・組織間での連携・協力体制が重要になります。また、医療や福祉などの機関、団体、事業所との連携も一層必要になります。地域の中でも特に中立的な組織である地域社協は、それらの連携への呼びかけやつなぎ役としての役割をこれからも果たしていきたいと思っています。

救急カプセル

東淡路・泉島地域社会福祉協議会
tel/fax 06-6321-5249

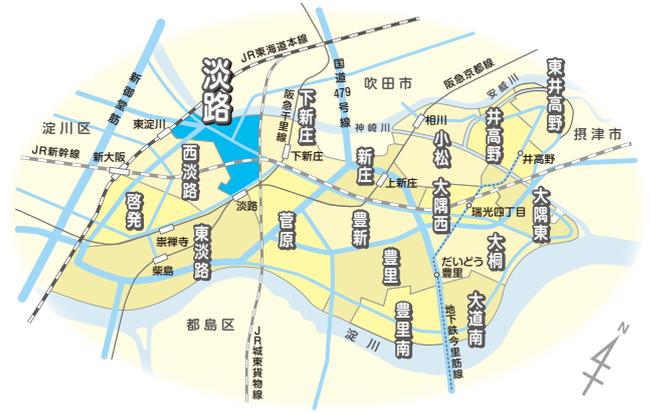
淡路

地域社会福祉協議会

地域のデータ

- 人口：8,097人(区内13位)
- 世帯数：4,442世帯(区内11位)
- 少子化率：7.5%(区内16位)
- 高齢化率：26.1%(区内3位)

(2010年国勢調査の結果より)



淡路地域の変遷

淡路地域は、1921(大正10)年に開業した阪急淡路駅を中心として淡路本町商店街などとともに発展してきた地域です。地域の行事も盛んで、行事に関わる方も参加される方も和気あいあいとした雰囲気の中、多くの方とのふれあいの場となってきました。

それらの行事では、地域の学校や商店、企業、施設、各団体などが密に協力し合っておこなってきました。地域社協がそれらの行事の主催となることはあまり多くありませんでしたが、地域の中で中立的な立場であることを活かして、行事などをおこなう上で大切になる、協力関係のつなぎ役として機能してきました。

■ 現在の状況

- 淡路地域では、年間の大きな行事の他にも、食事サービスやふれあい喫茶、子育てサロン、いきいきサロンなど、日々様々な事業や活動がおこなわれています。たとえば、いきいきサロンでは干支やクリスマスツリーなどをつくる手芸をしており、参加者だけでなく運営するボランティアも一緒に楽しんでいます。
- 食事サービスは、地域の会館に十分な調理設備とスペースがないことから、小学校の家庭科室をお借りして実施しています。広い会館がないことは残念なのですが、小学校の中で実施していることで、子どもたちと高齢者がふれあう、とても良い場になっています。
- 淡路地域では少子高齢化が進み、独居の高齢者も多く、孤独を感じる方が多いことを心配していますが、それらの行事によって、少しでも地域や人とのつながりを感じる方が増えればと思っています。

事業・活動等

- ふれあい喫茶
- 子育てサロン
- ふれあい型食事サービス
- いきいきサロン など



食事サービス〈子どもたちとの交流〉



淡路地域のこれから



クリスマス会

- 淡路地域が、今後さらに魅力的で住み良いまちになっていくためには、これまで以上に学校や商店、企業、施設、各団体・組織などがつながりを深め、力を合わせていくことがとても大切だと思っています。そのために、地域社協としても今後より一層、関係のつなぎ役としての役割を果たしていきたいと思っています。
- そして、高齢者だけでなく若者や子どもにも孤独感を抱える人が増えている昨今、様々な行事や活動などを通してつながりの輪を広げ、地域の誰もが孤独を感じずに暮らすことのできる地域を目指したいと思います。そのためにも今後、お年寄り子どもたちが一堂に集い楽しみ、交流できる行事などをさらに進めていきたいと考えています。



福祉施設でのボランティアさん

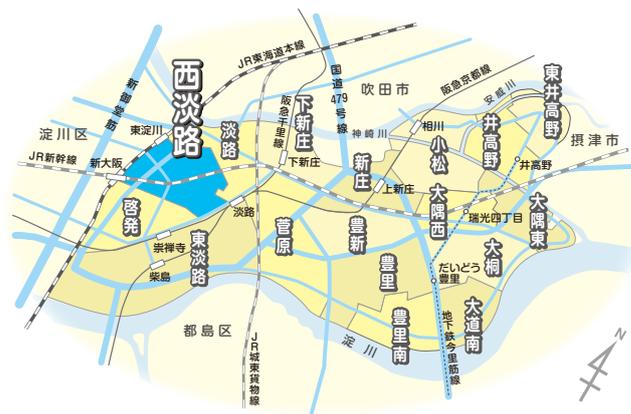
西 淡 路

地域社会福祉協議会

地域のデータ

- 人口：11,622人(区内7位)
- 世帯数：6,766世帯(区内5位)
- 少子化率：7.6%(区内15位)
- 高齢化率：25.5%(区内5位)

(2010年国勢調査の結果より)



西淡路庄地域の変遷

西淡路地域は、阪急淡路駅（1921（大正10）年）やJR東淀川駅（1940（昭和15）年）の開業に伴って発展しました。また、1964（昭和39）年には新大阪駅が開業し、一層人口が増加しました。他都市や地方からの転入も多かったことから、以前から地域のコミュニティづくりに力を入れてきました。もちつき大会は現在でもボランティアと参加者合わせて800人近くの方が参加する大きな行事で、地域のつながりづくりや世代間交流の場となっています。

また、子どもも多かったことから“地域で子どもを育てる”という流れがあり、様々な行事や取組みをおこなってきました。

■ 現在の状況

- 近年、子育てに不安や悩みを抱える人が増えていることから、子どもが楽しめ、子育て中の親同士がつながりをつくることのできる場として、『子育てサロン』に力を入れています。また、“子どもの貧困”が問題となりつつある社会状況にあって、小学校児童いきいき放課後事業や、緒に就いたばかりではありますが、子ども食堂『朝ごはんやさん』事業も、より充実させていきたいと思っています。
- また、地域で暮らす高齢者も増えていることから、高齢者のつながりの場づくりとして、できるだけ参加しやすいような配慮のもと様々な取組みをしています。
- その他にも、地域で必要とされることに対して本当の意味で力になれるよう、地道ではありますが生活に密着した堅実な取組みをすすめています。

事業・活動等

- ふれあい喫茶
- ふれあい型食事サービス
- 子育てサロン(月4回・20時間実施)
- いきいき教室
- 百歳体操
- 地域高齢者交流事業
- 西淡路小学校児童いきいき放課後事業 など



西淡路地域のこれから

- これからも、地域で必要とされることに対して本当の意味で力になれるような取組みをしていきたいと思っています。
- そのためには、まず、地域で暮らす方々の生活に目を向け、何が必要とされているかをしっかりと見ていきたいと思っています。そして、本当に必要とされることへの地道かつ堅実な取組みには、その分多くの力が必要です。これまでの取組みについても、今まで継続してこられたのは、力を注いでくださった方々や団体などがあってこそのものであります。
- 今後はより一層皆が力を合わせ、取り組んでいきたいと思っています。



□ 各地域社会福祉協議会の歩み

東井高野 1979(昭和54)年・東井高野連合振興町会発足
1983(昭和58)年・東井高野社会福祉協議会会則制定
1992(平成4)年・第1回地域社協敬老大会
1995(平成7)年・東井若鮎太鼓育成部会発足
1998(平成10)年・ふれあい型食事サービス開始
2002(平成14)年・子育てサロン開始
2003(平成15)年・ふれあい喫茶開始

井高野 1959(昭和34)年・井高野地域社会福祉協議会発足
1979(昭和54)年・井高野・東井高野地域が分割して発足
1991(平成3)年・第1回地域敬老大会
1997(平成9)年・ふれあい型食事サービス開始
2002(平成14)年・子育てサロン開始
・ふれあい喫茶開始

大隅東 1981(昭和56)年・大隅連合東西分割により
大隅東地域社会福祉協議会発足
1992(平成4)年・ふれあい型食事サービス開始
2000(平成12)年・ふれあい喫茶開始
2002(平成14)年・子育てサロン開始

大隅西 1947(昭和22)年・社協の前身である
大隅地域各種団体協議会発足
1969(昭和44)年・大隅地域社会福祉協議会発足
1981(昭和56)年・大隅地域が大隅東と大隅西に分割したことにより大隅西地域社会福祉協議会が発足
1992(平成4)年・ふれあい型食事サービス開始
2000(平成12)年・ボランティアコーナー開設
・ふれあい喫茶開始
2001(平成13)年・子育てサロン開始

大桐 1965(昭和40)年・大桐地域社会福祉協議会発足
1969(昭和44)年・第1回敬老大会
1974(昭和49)年・大阪市社協のモデル地区に指定
1992(平成4)年・ふれあい型食事サービス開始
・ふれあい喫茶開始
2002(平成14)年・子育てサロン開始

大道南 1989(平成元年)年・大道南地域社会福祉協議会発足
1993(平成5)年・ふれあい型食事サービス開始
1997(平成9)年・ふれあい喫茶開始
2001(平成13)年・子育てサロン開始

豊里 1951(昭和26)年・豊里地域社会福祉協議会発足
1973(昭和48)年・豊新地社協設立により一部地域分割
1988(昭和63)年・豊里南地社協設立により一部地域分割
1989(平成元年)年・大道南地社協設立により一部地域分割
1998(平成10)年・ふれあい型食事サービス開始
・高齢者カードによる実態調査
1999(平成11)年・ふれあい喫茶開始
2001(平成13)年・全国社会福祉協議会表彰受賞
・子育てサロン開始

豊里南 1988(昭和63)年・豊里南地域社会福祉協議会発足
1995(平成7)年・ふれあい型食事サービス開始
2002(平成14)年・子育てサロン開始

豊新 1973(昭和48)年・豊新地域誕生、
同時に豊新地域社会福祉協議会発足
1975(昭和50)年・「防火訓練の日」を定め訓練を開始
以降、毎年9月に訓練を実施
1977(昭和52)年・4地域(菅原・豊里・新庄・大隅)を統一した
地域盆踊り大会を開催
1979(昭和54)年・老人憩の家を建設
1982(昭和57)年・社会福祉会館を建設、
豊新地域の町づくりに大きく貢献
1999(平成11)年・ふれあい型食事サービス開始
2001(平成13)年・ふれあい喫茶開始
2003(平成15)年・子育てサロン開始

小松 1956(昭和31)年・小松地域社会福祉協議会発足
1980(昭和55)年・小松福祉会館竣工
1995(平成7)年・ふれあい型食事サービス開始
1998(平成10)年・ふれあい喫茶開始
2002(平成14)年・子育てサロン開始

新庄 1951(昭和26)年・新庄地域社会福祉協議会発足
1958(昭和33)年・新庄連合老人クラブ寿会発足
1972(昭和47)年・新庄老人憩の家開設(104.34㎡)
1991(平成3)年・新庄地域ネットワーク委員会発足
1992(平成4)年・新庄福祉会館・老人憩の家開設
1995(平成7)年・新庄地域ミニネットワーク委員会発足
・ふれあい型食事サービス開始
2000(平成12)年・新庄ふれあいサロン開設
2002(平成14)年・子育てサロン開始
2014(平成26)年・ふれあい喫茶開始

下新庄 1958(昭和33)年・下新庄地域社会福祉協議会発足
1976(昭和51)年・老人憩の家開設
1982(昭和57)年・下新庄福祉会館完成
1989(平成元年)年・下新庄地域社協の会員制を開始
1995(平成7)年・ふれあい型食事サービス開始
1999(平成11)年・子育てサロン開始
2000(平成12)年・ボランティアコーナー開設
・ふれあい喫茶開始

菅原 1954(昭和29)年・菅原地域社会福祉協議会発足
1962(昭和37)年・菅原地域社協に事務局を設置
1963(昭和38)年・社協に青少年部会を組織化
以降、計6部会が順次発足
1970(昭和45)年・全国児童健全育成指導者研究会において
厚生大臣表彰と全社協会長から感謝状を受領
1999(平成11)年・ふれあい型食事サービス開始
2001(平成13)年・ふれあい喫茶開始
2004(平成16)年・子育てサロン開始
・結成50周年記念事業として秋の大運動会を実施
2010(平成22)年・菅原小地域福祉活動計画策定
2011(平成23)年・ミニネットワーク委員会活動開始
2012(平成24)年・府下交通安全高齢者自転車大会に
警察署管内を代表して参加、優勝

東淡路 1951(昭和26)年・東淡路地域社会福祉協議会発足
1975(昭和50)年・大規模分譲マンション完成
1990(平成2)年・区内第1号としてふれあい型食事サービス開始
2001(平成13)年・子育てサロン開始
2002(平成14)年・ふれあい喫茶開始

淡路 1921(大正10)年・阪急淡路駅開業
1959(昭和34)年・淡路地域社会福祉協議会発足
1986(昭和61)年・大阪市社協のモデル地区に指定(3年間)
1994(平成6)年・ふれあい型食事サービス開始
2002(平成14)年・ふれあい喫茶開始
2004(平成16)年・子育てサロン開始

西淡路 1921(大正10)年・阪急淡路駅開業
1940(昭和15)年・JR東淀川駅開業
1951(昭和26)年・西淡路地域社会福祉協議会発足
・子供餅つき大会初実施
1959(昭和34)年・現在の淡路地域と西淡路地域分割
1964(昭和39)年・JR新大阪駅開業
1978(昭和53)年・大阪市社協のモデル地区に指定(3年間)
2001(平成13)年・ふれあい喫茶開始
2003(平成15)年・ふれあい型食事サービス開始
2004(平成16)年・子育てサロン開始
2016(平成28)年・西淡路小学校が淡路小学校との統合により移転

啓発 1951(昭和26)年・啓発地域社会福祉協議会発足
1964(昭和39)年・JR新大阪駅開業
1997(平成9)年・福祉会館・老人憩の家完成
2000(平成12)年・ふれあい型食事サービス開始
2001(平成13)年・ボランティアコーナー開設
・子育てサロン開始
2002(平成14)年・ふれあい喫茶開始

東淀川区 社会福祉協議会 の紹介



1 社会福祉協議会（略称：社協）とは

社会福祉協議会は国および全国の市区町村、都道府県・政令指定都市の段階に設置され、そのネットワークにより活動をすすめている社会福祉法に規定された団体です。民間組織としての「自主性」を持つと同時に、広く住民や社会福祉関係者に支えられた「公共性」という、二つの側面をあわせもった組織です。

また大阪市内など小地域レベル(概ね小学校区)での組織を有している自治体もあります。

東淀川区社会福祉協議会は1951(昭和26)年に設立され、淀川区との分区を経て、1991(平成3)年9月に社会福祉法人設立の認可を受け、現在に至っています。1997(平成9)年からは、大阪市高齢者保険福祉計画に基づき設置された、東淀川区在宅サービスセンター「ほほえみ」の運営を開始し、同センターを拠点に、次のような事業を展開しております。

1. 地域福祉事業
2. 地域福祉活動の推進
3. ボランティア・市民活動センターの運営
4. 地域包括支援センターの運営
5. 居宅介護支援事業
6. 介護予防事業
7. 地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業
8. あんしんさぽーと事業
9. その他

- 老人福祉センター管理運営代行
- 子ども・子育てプラザの運営
- 児童いきいき放課後事業
- 生活困窮者自立相談支援事業
- 認知症初期集中支援推進事業
- 子育てサービス利用者支援事業
- 生活福祉資金貸付事業の相談受付 等



2 地域社協と小地域福祉活動

東淀川区には17の地域があり、全地域に地域社協が組織されており、地域毎に福祉課題解決に向けた様々な活動が展開されています。区社協では、これら地域の活動がさらに活発になるよう、地域におけるコミュニティスクールや講習会の開催協力をはじめ様々な支援をおこなっています。

小地域福祉活動とは一般的に“お互いの顔が見える”日常生活圏域、いわゆる小地域においておこなわれる、住民による様々な福祉活動の総称です。各小地域では、地域社協や地域活動協議会、連合振興町会、民生委員協議会、ミニネットワーク委員会等が主体となり、地域の福祉課題にみんなで取り組んでいくための活動をおこなっており、具体的には次のような活動があります。

ふれあい喫茶

ひとこと言えば、世代を超えた地域の「仲間づくり」「出会いの場づくり」「情報の共有」等を図るための活動です。ボランティアの運営により地域の会館や集会所等を拠点に、毎月定期的で開催されています。メニューはコーヒー・紅茶・ジュースのほか、季節限定メニューを用意されている地域もあり、1品100円程度で提供されています。住民同士がお互いに喫茶を楽しみながらふれあい、交流を通じてつながりが深まるなど、地域の「拠点」としての役割を担っています。

高齢者（ふれあい型）食事サービス

区内に居住する概ね65歳以上の一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯等を対象に、食事の提供により健康増進を図るとともに、孤立や閉じこもりを防ぐことを目的に、大阪市から地域活動協議会に交付される補助金等を活用し、実施しています。

実施形態は食事会や弁当の配達で、ボランティアが中心となって運営しています。食を通じてのふれあいを大切にしている活動です。

子育てサロン

地域に住む就学前の子どもと保護者がボランティアや同じ立場の人たちと地域の会館や集会所等に集い、情報交換や交流を図ることで、楽しみながら子育てできるよう、お互いに支え合う活動です。運営には地域のボランティアをはじめ民生委員・児童委員、学校関係者、子育て支援センターの職員等が協力しています。東淀川区では17地域全域で実施されています。また、子育て支援グループが区内各所で交流の場を設けています。

世代間交流事業

もちつき大会やサマースクール（キャンプ）、伝承遊び等を通じて世代を超えた地域住民が集い、交流をはかることを目的とした活動で、「やさしさ」や「ぬくもり」を次世代につなげることで、コミュニティ豊かな地域づくりをめざしています。

今後に向けて

市民の皆様がいつまでも安心・安全に暮らしていくためには、地域の方々が協力し「コミュニティの“わ”（輪・環・和）」を構築していくことが何よりも重要です。

私たち区社協としましては、地域の方々や、区役所、関係機関・施設、学校等と連携し、誰もが安心して暮らせる住みよいまちづくりに向け、様々な活動を通じて、地域福祉の推進に取り組んでまいりたいと考えております。



東淀川区ボランティア・市民活動センターの紹介

略称：東淀川ボラセン

東淀川区ボランティア・市民活動センターは、従来のボランティア・ビューローの機能強化を図るため、2015年3月14日にリニューアルオープンしました。まだまだ認知度が低いですが、市民の方々に広く知っていただくためのPRに努めるとともに、「ぜひ活用したい」と思っていただけのような取組みを積極的に進めてまいります。



①交流スペース

東淀川ボラセンってなに？

- ボランティアを「してほしい人」と「したい人」をつないでいます。
- ボランティア・市民活動グループの活動を支援しています。
- 多くの方がボランティア・市民活動に参加してもらうために、参加の呼びかけや働きかけをしています。



ボランティアをお願いしたいこと、活躍してもらえる場をおしえてください！

- ボランティアとして活躍してもらうためには、活躍の「場(ニーズ)」が必要です。
- 些細な事でも結構です。ボランティアをお願いしたい事や、活躍してもらえる場をおしえてください！
- ※全てのニーズにお応えできるわけではありません。あらかじめご了承ください。

ボランティアに興味がある方はぜひ！

- ボランティア活動には、もちろん大変なこともあります。
- でも、それ以上に楽しさや喜びのある魅力的なものです！
- 少しでもボランティアに興味のある方は、「ホームページをご覧ください」「お問い合わせいただく」「ボラセンにおこしいただく」など、ぜひ第一歩を踏み出してみてください！



ボラセンのホームページを公開しています！

- 活躍する団体の紹介やボランティアの募集情報、活動されたボランティアの活動報告などを掲載していますので、ぜひご覧ください！
- また、ボランティアの魅力を多くの方に伝えられるようなコンテンツを現在考案中です。乞うご期待！



ホームページ <http://higashiyodogawa-vc.org/>

東淀川ボラセン 検索

東淀川区ボランティア・市民活動センター

- 場 所 ● 東淀川区在宅サービスセンター ほほえみ3階
- 開館日 ● 月～土曜日(日・祝、年末年始を除く)
- 開館時間 ● 午前9時30分～午後5時
- お問合せ ● TEL.06-6370-1630



Click! ボランティア募集中

社会福祉法人設立までの経緯と 設立後の歩み

設立まで
1951 » 1991

西暦	主な出来事	年号	●体制・開催事業など
1951	・民間放送開始 1953・NHKテレビ本放送開始	昭和26年	[社会福祉事業法公布(3月)] 2月 ●東淀川区社会福祉協議会(任意団体)発足 順次各地区に地域社協発足([大隅] [豊里] [新庄] [菅原] [東淡路] [西淡路] [啓発])
1956		昭和31年 4月	[小松] ●新庄地域分割により小松地域社会福祉協議会発足
1958	・国民健康保険法公布	昭和33年 8月	[下新庄] ●新庄地域分割により下新庄地域社会福祉協議会発足
1959	・伊勢湾台風	昭和34年 9月	[淡路] ●淡路地域分割により淡路地域社会福祉協議会発足 11月 [井高野] ●大隅地域分割により井高野地域社会福祉協議会発足
1961		昭和36年 6月	●区役所新庁舎へ移転(現:淀川区役所)、区役所(東淡路)は出張所となる 9月 ●敬老月間運動・各種事業を実施(以後毎年実施)
1962		昭和37年	[社会福祉協議会基本要綱策定] 12月 ●東淀川区市民会館(現:淀川会館・東淀川老人センター)
1963	1964・東京五輪開催	昭和38年 7月	●「社会を明るくする運動」の推進運動を実施(以後毎年実施) 9月 ●敬老月間につき「はり・あんま」の出張奉仕を実施(以後毎年実施)
1965	1966・「敬老の日」制定	昭和40年 5月	[大桐] ●大隅地域分割により大桐地域社会福祉協議会発足 9月 ●各地域敬老会開催助成
1968	1970・大阪万国博覧会開催 1972・札幌冬季五輪開催	昭和43年 5月	●区善意銀行を設置
1973	・オイルショック	昭和48年 7月	[豊新] ●菅原、大隅、新庄、豊里地域の一部分割により豊新地域社会福祉協議会発足
1974		昭和49年 7月	●大阪市行政区再編成により現東淀川区となる(22日)
1975		昭和50年 9月	●第1回 区敬老大会(17・18日)(平成2年以後各地域にて開催)
1979		昭和54年	[国際児童年] 4月 [東井高野] ●井高野地域分割により東井高野地域社会福祉協議会発足
1980		昭和55年10月	●大阪市社会福祉協議会より優良区社協として表彰される
1981		昭和56年	[国際障害者年] 1月 [大隅東] [大隅西] ●大隈地域分割により大隈東地域・大隈西地域社会福祉協議会発足 6月 ●東淀川区社会福祉協議会創立30周年記念大会(20日)
1984		昭和59年 3月	●東淀川社協だより創刊号発行(以後毎年2～4回発行)
1988		昭和63年 4月	[豊里南] ●豊里地域分割により豊里南地域社会福祉協議会発足
1989	・消費税3%へ	平成元年	[高齢者保健福祉推進十カ年計画(ゴールドプラン)決定(12月)] 4月 [大道南] ●大桐地域・豊里地域分割・合併により大道南社会福祉協議会発足
1990	・東西ドイツ統一 ・国際花と緑の博覧会	平成2年	[社会福祉関係8法改正(6月)]
1991	・バブル崩壊 ・ソ連邦解体 ・湾岸戦争勃発 ・雲仙普賢岳噴火	平成3年	[ふれあいのまちづくり事業開始] 3月 ●ボランティア・ビューロー開設 ●東淡路地域で区内最初のふれあい型食事サービス事業開始 5月 ●第2回 区ボランティアスクール 10月 ●社会福祉法人 東淀川区社会福祉協議会設立



①はり・あんま施療事業



②創刊号と現在の社協だより



③ふれあい型食事サービスのようす

社会福祉法人設立までの経緯と設立後の歩み

西暦	主な出来事	年号	●体制・開催事業など
1991		平成3年10月	●社会福祉法人 東淀川区社会福祉協議会設立
1992		平成4年	〔「国連・障害者の十年」列島縦断キャラバンスタート〕 3月 ●ボランティア・ビューロー開設1周年・社会福祉法人設立記念福祉大会(豊新小学校講堂)
1993	・EU発足	平成5年	5月 ●福祉機器展 7月 ●ふとん丸洗い乾燥事業開始(以後毎年開催)
1994	・関西国際空港開港 1995・阪神・淡路大震災 ・地下鉄サリン事件	平成6年	〔新ゴールドプラン策定(12月)〕〔エンゼルプラン策定〕〔国際家族年〕
1996		平成8年	〔障害者プラン策定(12月)〕〔「阪神・淡路大震災におけるボランティア団体活動支援のための募金」開始〕 5月 ●区ふれあいのつどい事業開始(4回/以後毎年開催)
1997	・消費税5%へ 1998・長野冬期五輪開催	平成9年	〔介護保険法及び介護保険法施行法公布(12月)〕 2月 ●区在宅サービスセンター「ほほえみ」開設 ●在宅介護支援センター・デイサービス・生活支援型食事サービス開始 ●機能訓練事業(平成12年終了)・社会適応訓練受託
1999		平成11年	〔地域福祉権利擁護事業の開始〕 10月 ●要介護認定訪問調査受託
2000		平成12年	〔社会福祉事業法等一部改正法「社会福祉法」に(6月)〕〔介護保険制度施行〕〔改正成年後見制度施行〕 4月 ●介護保険事業(適所介護・居宅介護支援事業)開始
2001		平成13年	〔ボランティア国際年〕〔社会福祉事業法制定〕〔社協創設50周年〕 10月 ●車いす対応自動車貸し出し事業開始 11月 ●創立50周年記念 東淀川区社会福祉大会(7日) ●運転・外出ボランティア養成学院
2002		平成14年	〔障害者基本計画(2003年度～2012年度)〕〔重点施策実施5か年計画(新障害者プラン)策定〕 1月 ●東淀川区社会福祉施設連絡会設立総会 2月 ●地域福祉講座 3月 ●ふれあいバスツアー(以後毎年開催) 6月 ●子育て応援ボランティア講座 11月 ●東淀川区社会福祉大会 ●東淀川区ボランティアセミナー(以後H15.5に開催) 12月 ●地域福祉講座(小地域福祉活動懇談会)
2003	・欧州通貨統一(ユーロ) ・公立学校完全週5日制	平成15年	〔社会福祉法施行〕〔支援費制度施行※1〕〔労働者派遣法改正(2004年施行)※2〕 2月 ●ふれあいバスツアーからはじめるボランティア講座(以後H16～18年は「外出サポートボランティア講座」、H21～24年は「車いす介助・手引きの実践講座」、H26年以降「初級ボランティア講座」として開催) 6月 ●音訳ボランティア講座(以後H26.7に開催) 12月 ●中高年からの福祉体験紀行
2004	・裁判員制度法成立 ・年金法成立	平成16年	〔発達障害者支援法成立〕〔障害者基本法改正※3〕 2月 ●精神保健ボランティア講座(全4回/以後H20.3、H23.9、H25.11、H26.11に開催) 3月 ●小地域福祉活動発表会(以後H17.3に開催) 8月 ●地域福祉アクションプラン策定委員会発足 11月 ●地域福祉フォーラム ●子育てサロン第1回合同研修会



東淀川区在宅サービスセンター「ほほえみ」



ふれあいバスツアー

※1 …身体障がい者・知的障がい者に対する福祉サービスが措置制度から契約制度に移行したもので、サービスの受給費用を市町村が支援費として利用者に支給した。
※2 …派遣可能期間を3年に延長。製造業への労働者派遣が解禁される。
※3 …都道府県と市町村に障害者計画の策定を義務化。

西暦	主な出来事	年号	●体制・開催事業など
2005		平成17年	〔改正介護保険法施行／介護サービススタート〕〔高齢者虐待防止法施行〕〔障害者自立支援法施行〕 12月 ●第1回 わくわく子育てみのりちゃんフェスタ(以後毎年開催)
2006		平成18年	〔公益法人制度改革関連法成立〕〔バリアフリー新法〕 3月 ●小地域ネットワーク活動研修会(以後H19.3に開催) ●ボランティアシンポジウム とびだせ!セカンドステージ
2007	・コムス問題発覚 ・高齢人口21%超(超高齢社会の到来) ・新潟県中越沖地震 ・郵政民営化	平成19年	〔社会福祉士及び介護福祉士法改正〕〔老人福祉法改正〕 〔地域福祉権利擁護事業が日常生活自立支援事業に〕 3月 ●アクションプランフェスティバル 10月 ●パパとママの子育て講座(全4回)
2008	・リーマンショック 世界同時不況	平成20年	〔全社協設立100周年〕〔後期高齢者医療制度開始〕
2009	・裁判員制度スタート	平成21年	2月 ●第1回 災害ボランティア養成講座(全4回／以後H24.12、H26.2に開催) ●第1回 地域福祉活動推進事業 事務連絡会・研修会
2010	・ユーロ危機	平成22年	〔日本年金機構発足〕
2011	・東日本大震災	平成23年	〔高齢者の居住の安定確保に関する法律の改正〕〔障害者虐待防止法成立〕 2月 ●地域福祉活動推進事業 初級パソコン講習会
2012		平成24年	〔障害者総合支援法(障害者自立支援法からの改正)〕 6月 ●東日本大震災活動者交流会 7月 ●福祉体験学習会(講師派遣／以後区内の小・中・高等学校等で随時開催) ●NPO実践に関する研修会～地域を元気にする取り組み～ ●認知症サポーター養成講座(以後出前講座を含め随時開催) 12月 ●こんなサロンもあるんや!～「住み開き」等で始める新しいコミュニケーション～
2013		平成25年	〔障害者差別解消法〕〔障害者雇用促進法改正〕〔生活困窮者自立支援法〕 〔生活困窮者自立促進支援制度を創設(2015年4月1日より施行)〕 11月 ●大阪市地域福祉活動推進事業啓発事業Ⅰ 講演会「子どもの虐待を考える」～虐待防止に向けた地域ぐるみの取り組みを進めるために～
2014	・消費税8%へ	平成26年	〔認定社会福祉士制度開始〕〔母子及び父子並びに寡婦福祉法(母子及び寡婦福祉法から改正)〕 1月 ●家族介護支援事業「元気力アップ講座」 2月 ●地域福祉活動推進事業Ⅰ 講義&グループワーク「子育て支援の充実に向け私たちにできること」 ●地域福祉活動推進事業Ⅱ 講義「“ひきこもり・ニート・不登校”の理解と対応」 ～居場所支援・家族支援～ 3月 ●大阪市地域福祉活動推進事業啓発事業Ⅱ 基調報告&シンポジウム「地域の孤立死をなくすために」 ～孤立死防止に向けた地域ぐるみの取り組みを進めるために～
2015	・マイナンバー制度制定 ・安保法成立	平成27年	3月 ●ボランティア・ビューローが「ボランティア・市民活動センター」としてリニューアルオープン 10月 ●認知症カフェ実施(ひがしよどがわキャラメイト)(以後、随時開催)
2016	・熊本地震	平成28年	〔障害者差別解消法施行〕 1月 ●傾聴ボランティア養成講座



① わくわく子育てみのりちゃんフェスタ



② 福祉体験学習会



③ 東淀川区ボランティア・市民活動センター
リニューアルオープンを祝うセレモニー



特別功勞表彰受賞者

(敬称略・順不同)

理事・監事

- ◆ 吉田 正則
(豊里地域)
- ◆ 松山 末子
(大隅西地域)
- ◆ 岩下 秀夫
(啓発地域)
- ◆ 倉田 秀太郎
(新庄地域)
- ◆ 古泉 進
(東井高野地域)
- ◆ 中 保昌
(東淡路地域)
- ◆ 中畑 鴻
(菅原地域)
- ◆ 松村 寛
(小松地域)
- ◆ 森川 正
(淡路地域)
- ◆ 山田 力
(豊里南地域)
- ◆ 吉川 正司
(井高野地域)
- ◆ 寺元 誠一
(東井高野地域)

評議員

- ◆ 伊賀 照子
(淡路地域)
- ◆ 生島 喜信
(下新庄地域)
- ◆ 表西 弘子
(西淡路地域)
- ◆ 末満 進
(大隅東地域)
- ◆ 高垣 俊夫
(大道南地域)
- ◆ 辻林 宏孝
(東淡路地域)
- ◆ 靄田 雄二
(大隅東地域)
- ◆ 原田 幸悦
(啓発地域)
- ◆ 藤谷 俊夫
(井高野地域)
- ◆ 増田 光司
(淡路地域)
- ◆ 出原 寛美
(豊新地域)
- ◆ 木南 龍雄
(新庄地域)

ボランティア団体

- ◆ 手話サークル「ほたる」
- ◆ ボランティアサークル 淀の会
- ◆ 音訳ボランティアグループ つばさ
- ◆ 精神保健ボランティアグループ「はっぴい・サラダ」
- ◆ 東淀川ちよぼらの会
- ◆ 手話サークル すみれ
- ◆ 各地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 東井高野地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 井高野地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 大隅東地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 大隅西地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 大桐地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 大道南地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 豊里地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 豊里南地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 豊新地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 小松地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 新庄地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 下新庄地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 菅原地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 東淡路地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 淡路地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 西淡路地域高齢者食事サービス委員会
 - ・ 啓発地域高齢者食事サービス委員会
- ◆ 各地域子育てサロン
 - ・ 東井高野ふれあい子育て(東井高野)
 - ・ スペース「のびのび」井高野(井高野)
 - ・ 大隅東子育てパンダ(大隅東)
 - ・ 大隅西子育てサークル(大隅西)
 - ・ 大桐地域ふれあい子育てサークル(大桐)
 - ・ 大道南子育て支援(大道南)
 - ・ 豊里ふれあい子育て教室(豊里)
 - ・ 豊里南「子育てクラブ」(豊里南)
 - ・ 豊新おやこひろば(豊新)
 - ・ 小松子育てサロン(小松)
 - ・ 新庄地域育児サークル(新庄)
 - ・ 下新庄子育てサロン「お母さんあつまって」(下新庄)
 - ・ 菅原子育てサロン「親子でスマイル」(菅原)
 - ・ 東淡路子育てサロン(東淡路)
 - ・ 淡路子育てサロン「たんぼぼ」(淡路)
 - ・ 西淡路子育てサロン「バンビ」(西淡路)
 - ・ 親子で一緒にあそびましょう(啓発)
 - ・ あっぷるパイ(東淀川区)
 - ・ p o k k a p o k a (東淀川区)

記

念誌製作に伴い、地域社協の多くの方々取材させて頂きました。どの方も、我が町を盛り立てようと奮闘されており、その姿にたいへん感動しました。今まで、区内の町は全て同じように見えていましたが、それぞれに色があり、それぞれに多くのボランティアが支えていることを知り、町を歩くのも楽しくなる今日この頃です。東淀川区が大好きです。素晴らしい機会を与えて頂いたことに感謝しています。

塩見 恵美(ボランティア記者)

私

は、守口市在住のため東淀川区のことは全く知りませんでした。どんな地域があり、特色があるのか、全く知らない状態からの取材でした。しかし、そんな私の取材にも丁寧に対応してくださり、ありがたかったです。取材を通して、さまざまな地域で、多くの事業をして、それでもまだまだアイデアがあるという会長さん、地域のために行動しよう、その気概で満ちているように思いました。東淀川区は、住みやすく、温かい街だなあと思いました。

竹田 道正(ボランティア記者)

大

阪市東淀川区社会福祉協議会は、本年10月に社会福祉法人設立25周年という佳節を迎えることができました。今日に至るまで、当会の発展ならびに地域福祉の推進にご尽力いただきました歴代会長、役員の方々をはじめ、多くの諸先輩方に深く感謝申し上げますとともに、長年にわたるご努力、これまでのご功績に深く敬意を表します。

本誌の発行にあたっては、当初の予定より準備開始が遅れ、十分な作業時間が取れず、わずかな期間での編集となりましたので、不備な点もあるかと存じますが、何卒ご容赦のうえお手元に置いていただき、当会ならびに各地域社会福祉協議会のこれまでの歩みや現在の活動から、それぞれの機能・役割等についての理解を深めるための一助としていただければ幸いです。

末筆ながら、取材に応じていただいた地域社協会長はじめ関係者の皆様、ご祝辞をお寄せいただいた大阪市東淀川区長の金谷一郎様、大阪市社会福祉協議会会長の乾 繁夫様、ならびに各地域への取材の同行や記事の編集にご協力いただいたボランティア記者の塩見恵美様、竹田道正様に、心より厚くお礼申し上げます。

記念誌編集スタッフ一同

これからも地域福祉の真ん中に



社会福祉法人 設立25周年記念誌

～これまでの歩みと未来に向けて～

2016(平成28)年11月12日発行

発行：
社会福祉法人
大阪市東淀川区社会福祉協議会

協力：
東淀川区各地域社会福祉協議会
大阪市東淀川区役所
社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

制作・印刷：
東洋紙業高速印刷株式会社



1991 ⇨ 2016

社会福祉法人
設立25周年記念誌

～これまでの歩みと未来に向けて～



社会福祉
法人

大阪市東淀川区社会福祉協議会

〒533-0022 大阪市東淀川区菅原4-4-37

東淀川区在宅サービスセンター「ほほえみ」内

TEL.06-6370-1630 FAX.06-6370-7330

<http://www.hohoemi-kushakyo.or.jp/>